

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年7月14日(土) 午前9時から10時20分まで 【2回目】平成30年8月31日(金) 午後6時から7時20分まで
場 所	坂本中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】33人 【2回目】2人 計35人 (2) 事務局 【1回目】教育部長 【2回目】教育長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 坂本小 302人(12) 東小沢小 18(3) 坂本中 117人(3) (20年後) 坂本小 228人(8) 東小沢小 14(3) 坂本中 89人(3) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問) 久慈中の生徒数推計を教えてください。</p> <p>(事務局) 久慈中学校の現在の生徒数は249人、8学級。10年後は173人、6学級。20年後は131人、6学級という推計が出ている。</p> <p>(質問) 通学の安全性についての要望。学区の端に住んでいて登校は40分、下校は、暑いので1時間くらいかかっている。運転できないので迎えに行けない。スクールバスの運行は検討しているか。</p> <p>(事務局) 学校の再編と絡めて考えると、統合することで学区が広がる可能性があり、通学距離が長くなる、長くなることで危険な箇所が増えるなどの心配をされている方は他の会場でもいらっしゃる。アンケートでも心配されている方がいらっしゃる。すぐにスクールバスを運行するという話にはできないが、安全性を確保することが最も大切なので、スクールバスの運行を検討する考えはある。 一方で、再編によりスクールバスを運行している自治体が多いが、課題があることが分かっている。歩かなくなることで体力が低下するので学校の手前で降ろして歩かせる、登校してから校庭を走るなどをしている。交通事情がよくないので時間がかかる、バスを確保することが難しいといった課題がある。そのような課題も含めて、保護者の皆さんと協議しながら決めていきたいと考えている。</p> <p>(質問) いつごろ再編するのか、スケジュールを知りたい。現在検討中の計画は、個別計画なのか、再編は一気に行うのか。</p>	

(事務局)

スケジュールについては、昨年の地域懇談会でも、見通しが立たないということが多くいただいた質問の一つ。現在検討中の計画の中でしっかり示したい。

基本方針に基づいて、日立市の全体像をお示しし、今後おおむね10年間に、どの学校をいつ、どうするかという具体的なものをお示ししたいと考えている。もう少し時間をいただきたい。

どのくらいからスタートするのかということだが、他の自治体の例で一般的なものを紹介したい。

統合する事例のうち、大きい学校に小さい学校の人数を受け入れる余裕があり、建物に手を入れなくて済む場合は3年くらい、校舎の増改築や建て替えが必要な場合は5年くらいかかるといわれている。前半は、新校の校名や校歌、PTA活動、通学の危険の解消などを保護者や地域の人たち、学校、教育委員会との間で協議をする時間が1～2年かかるといわれている。その後、施設の整備をして統合となるので早くて3年、一般的には5年くらいかかる。

再編を一気に行うのかという点については、建て替えが必要な場合は、お金もかかるので10校を一気にはできない。現実的には、計画を立てて順次行うようになる。

(質問)

また、統合のときは、途中で転校することになるのか。統合前の学校で卒業せずに、統合先で卒業を迎えることになるのか。

(事務局)

いろいろ課題はあると思う。統合が決まっている学校に入学させるのかというご意見もあると思う。

例えば、3年後に統合が決まっているので新入生を入学させないことになると、卒業の時に3年生だけが残ってしまう、3年生だけで部活動ができるか、卒業式などの学校行事ができるか、などの問題もある。

何年後に統合するのかをしっかりと周知をし、事前に統合する学校同士の交流事業を進めて、一斉異動が円滑にできるように準備を講じることが一般的。いずれにしても、お子さんに負担のないように、円滑に学校生活が送れるように、その学校から卒業できてよかったと思えるように進めていきたいと考えている。

(意見)

子どもたちが、授業中、部活中もとにかく学校が暑いと言っている。帰宅後に頭痛が起こることもある。エアコンを設置してもらえないか。

(教育部長)

エアコンについては、大規模改修や建て替えの時は、全ての教室に設置している。財政的なこともあり、全校に一斉にエアコンを入れると明言はできない。再編が進む中では完備していけると思う。ただ、近年は季節が早まっているので、できるだけ早いうちに何かの手を打ちたいと考えている。

(意見)

一時的な対策として、スポットクーラーのレンタルなどは検討しているか。

(教育部長)

選択肢の中には入ると思うが、学校ごとに対策が違うという訳にもいかない。言葉は悪いが、しっかり整備してしまうと、時間もお金もかかる。再編が決まっていない中では、応急処置的な対策になるのかもしれない。

(意見)

個人的には、それでもいいと思う。保護者負担があってもいいので検討してほしい。

(教育部長)

急ぎ検討していきたい。

(質問・意見)

子どもが生まれたばかりで不安がいっぱい。

バスでの通学について聞きたい。再編となるとバスの運行は現実的なこととなる。先生や介助員などの大人がいない中で、誘拐の心配や毎日同じ場所で同じ時間にバスを待つ間や車内でのトラブルなどに、どのように対応してもらえるのか。

いじめや不登校について聞きたい。再編で学校が減ると、子どもが通う学校の選択肢が減ることになる。学区の学校に行けなくなった時に、転校できる学校がなくなる。ある意味、固定した人間関係で過ごすしかない。

学童保育について聞きたい。現在育休中であるが、保育園に入れずに育休を延長した。学校が減ると学童も減る。子どもを預けられないと仕事を辞めなければならなくなり、経済的に子どもを守っていけなくなる。子どもたちの放課後の居場所が減ってしまうことに不安を持っている。

(教育部長)

通学のご心配については、再編の検討と同時に学校運営協議会の運営を進めている。学校の運営に地域や保護者も入ってもらう試み。その中で、バスであっても最後は1人になってしまうので、人目が届きにくい場所などを確認しながら通学路を設定していく。バスを待つ間を含めた登下校の見守りについては、保護者や地域の皆さんにお願いしていきたい。働いていると立哨当番も負担に感じるだろう。学校が小さいと当番の頻度が高い。地域の手、目、力を借りざるを得ない。

スクールバスを運行する際は介助員をつける。具体的な話になったときに改めて協議をしたい。

2点目のいじめについては、日立市のいじめの認知件数はうなぎ上りである。いじめが増えているのではなく、見つける努力をした結果。頻繁にアンケート（ハイパーQ Uテスト(*)）などを行っている。グラフ化して不安のある子どもたちの目安をつけることができる。子どもたちの実態についても、耳を傾けるようにしている。いじめはエスカレートすると止めるのが大変。初動対応が一番大事、芽を摘むことが大事。大人でも合わない人はいる。学校では、みんなと仲よくしようと教えるが、意見の違う子、合う子、合わない子の中でグループができてくる。母集団が多くなると、安心できる社会（グループ）ができにくい。起こってしまったものについては、少しでも早く対処する。

3点目の学童について。統合によって対象が増えれば、それに見合った対応をしていくべきと考える。統合で2校が1校になれば、児童クラブの定員は倍増する。指導員などの体制を整えることが必要。

日立市の姿勢としては、保育園、児童クラブともに待機児童を作らないことが基本的な方針。教育と子育て支援は一体で進めていく。安心してほしい。

(*) Q-U (hyper-QU)

学校生活における児童生徒の意欲や満足感、および学習集団の状態を質問紙により測定するもの。「やる気のあるクラスを作るためのアンケート」と「いごちのよいクラスにするためのアンケート」から構成され、15分程度で実施できる。このテストでは、以下を把握することができる。

- ・不登校になる可能性の高い児童生徒はいないか？
- ・いじめ被害を受けている可能性の高い児童生徒はいないか？
- ・意欲が低下している児童生徒はいないか？
- ・学級崩壊に至る可能性はないか？
- ・学級集団の雰囲気はどのような状態であるか？

「hyper-QU」は、上記の2つに「ふだん（日常）の行動をふり返るアンケート」を加えたもの。

（「教育評価研究所」及び「小・中・高等教育相談研究委員会」のサイトから抜粋）

（事務局）

いじめと不登校について。毎日楽しく学校に行ってほしい、友達と仲良く過ごしてほしいというのは、親の一番の願い。

学校の一番の使命は学力の向上といわれている。それには、子どもたちが安全に安心して生活できることが前提。今の学校は、いじめや不登校には非常に敏感で、いじめはどこでも起こりうることを共通認識としている。ニコニコ生活していても安心ということはない。担任だけでなく、いろいろな先生方の目で見守ることとしている。アンケートなどで未然防止に努めている。

未然防止をしたからと言って（いじめが）起こらないとは限らない。気づいたことがあれば、学校に伝えてほしい。担任でなくてもいい。教育委員会でも構わない。

不登校についても、3日間休んだら必ず家庭訪問することになっている。

（質問）

小6の進学先を久慈中にするか、坂本中にするか悩んでいる。ここ3年以内には決まらないのか。それがはっきり分かれば考える材料になる。

（事務局）

決まっていないので具体的なことは申し上げられない。

「校舎の安全確保」として、児童生徒の安全を第一に、耐震補強や老朽化対策などの整備が必要な学校は、優先的に検討することになっている。

坂本中学校については、校庭が狭い中で、プレハブという環境で学んでいただいていることを申し訳なく思っている。再編計画の中で優先的に検討して結論を出したいと考えているので、お時間をいただきたい。それが3年後なのか5年後なのかは決まっていないので申し上げられない。

（質問）

保護者懇談会の2ヶ月くらい前から合併のうわさが出ていたので、今回は合併の説明なのかと思っていた。何も決まっていないというが、うわさが出るということは、決まっていることがあるのではないかと。

（教育部長）

他の学校でも、「人数が減って部活動ができない。どうにかしなければいけないね。」と会話したら、統合して学校が無くなるうわさになってしまった。

学校を統合することは、地域の在り様自体が変わってくるということ。各コミュニティには、発足から40年の間にそれぞれ独自の活動が作られてきた。

昨年度は地域の意見を伺い、今年度は保護者の皆さんの意見を伺っている。今後、学校現場の意見、議会の意見なども聞いていかなければならないことを考えれば、例えば、検討の中に坂本中や久慈中の名前が出てくるのは、早くても来年度、今年度は無理だろう。その後に、校舎の整備を考えれば最短でも3～4年はかかる。校名や校歌、その他のことを調整するにも時間が必要になる。

(意見)

進捗について、定期的に広報してほしい。

(教育部長)

リーフレットの最後に「(仮称)日立市立学校再編計画」を策定すると書かれているが、これを急ぎたい。素案ができたなら皆さんにお知らせするので、お待ちいただきたい。

(意見)

今回は、具体的なたたき台が聞けると思ってきた。都市計画の領域にもなり、すぐには進まないことは納得できる。しかし、自分の子どもには間に合わない。中学生の子どもを見ていると、自分たちの頃に普通にできていたことが難しくなっている。このままではいけないのだと思う。

たたき台でいいので公開してもらえれば、日立市民が見ていろいろ言えると思う。目に見えるものが出てくれば、自分なりに気づくことがあると思う。完璧なものでなくていい。決まったことが発表されて、説明会があって、意見は聞けけれど何も変わらないというのが公共事業。子どもの将来に深く関わる話なので、ぜひ、そのような形で(経過を示しながら)進めてほしい。

(事務局)

行政で考えている案を示すことで、いろいろな意見が出てくると思うので、そのような機会を作ることが大事だと考えている。今回も、その機会の一つと理解してほしい。

今後、具体的な検討をしていくことになるが、決まってから「これで」という出し方はしない。検討段階の、案が固まっていない状況で出すことで混乱を招いてしまう。うわさが一人歩きしてしまう可能性がある。他の自治体でも混乱してしまった事例がある。行政が一方的に決めることはしないが、整理をして案を出すタイミングを待ってほしい。その時には、案を作ってお示しし、ご意見を伺う機会を改めて作る。

この基本方針も、事前の段階ではアンケートをしたり、地域懇談会で意見を伺ったりして、市民の代表である検討委員会で議論していただいて作った素案を、ホームページや地域懇談会でお示しして、意見をいただく機会を作って策定という段階を踏んで作ったもの。再編計画も、そのような段階を踏んで策定していくので安心してほしい。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

坂本中の人数を教えてください。

(事務局)

5月1日現在で、1年生39人1学級、2、3年生は60人以上いるので2学級ずつ。

(質問)

アンケートの結果で、学級の人数は少ない方がいいとなっているが、どのくらいがいいと考えているのか。

(教育長)

茨城県では、小学1、2年生は35人が上限で、1人でも増えれば2学級になる。3年生以上は40人。学年が上がっていくと様子が少し違ってきて、多い中で合わない友達がいっても、かわしながら過ごしていけるようになってくる。

(事務局)

入学したときに子どもに負担がないことが一番良い。幼稚園・保育園では、クラスに40人はいない。家庭的なところでは15人くらい。子どもたちの立場になってみると、急に人が増えて落ち着かない上に、幼稚園・保育園では遊びながら過ごしていたものが、椅子に座って過ごさなければならなくなる。

極端に少なくても良くない。子どもたちは、もっとたくさんの友達と遊びたいと思っている。少ない学校では、全校児童でサッカーをしたりするが、高学年が気を遣う。情操的には良いが、同学年でサッカーができればいいと思う。

茨城県では、36人以上の学級には講師が配置され、2人の教員で学級を見ている。(小学校)

坂本中の1年生は、上限の人数。もう少し増えて2学級になるといい。

経験からは、25～30人がいいと思う。アンケートでも、20～30人くらいの人数であれば落ち着いて生活でき、先生にも丁寧に関わってもらえるという回答が多い。

(意見)

市外の中学校で講師をしている。35人以上が教室にいると多いと感じる。30人くらいがいいと思いながら、机の間を通っている。ガヤガヤしてしまうと感じる。3学級にすると教員を増やすことになるのか。

(事務局)

クラスが増えれば、その分の担任が必要になるので、教員が増えることになる。

(教育長)

何人がいいかということもあるが、どのような学校づくりをしていくかが大切だと思っている。子どもたちをもっと増やすことも考えていきたい。

保護者として学校や教育に望むことがあれば教えてほしい。

(質問)

日立市では、学校にエアコンは付いているのか。

(教育長)

日立市は海風が入り、エアコンがなくても過ごせた。ここ数年、暑くなってきて全教室に扇風機を設置した。新しく建て直す学校に設置しているが、使わずに過ごせていた。今年使わなくてはならない日が何日かあった。各家庭でエアコンを使っている状況の中

で、学校でエアコンがないのは厳しい。全教室へのエアコン設置が、来年の夏に間に合うように努力をしている。

（事務局）

ご自宅からは、どのくらいの時間で登校できそうか。

（意見）

小学校は近い。

（意見）

小学校は近い。中学校は大人の足で20分くらい。

（教育長）

今回の懇談会も、きっかけは、子どもたちが少なくなってきて、いろいろ考えなくてはいけないということだったが、若い人たちにも参画していただきながら、より良い町を作るために、いろいろなことを伺いたい。

坂本小は、先駆けてオープンスペースを設けた学校で、少人数指導やグループ活動がしやすいようになっている。

（事務局）

坂本小のオープンスペースは、廊下が広く仕切りが可動式になっている。道徳の時間など、仕切られた空間でしみじみと授業をした方が良いものもあり、できた当初は心配していた。しかし、意外と子どもたちは気遣いして、大人が考えるより敏感に対応できていた。

主体的、対話的な深い学びという新しい学習指導要領に沿って、一斉だけでなくグループに分かれて学習するなど、校舎を有効に活用していて、落ち着いて生活している。そのような面でも子どもの成長を感じる。新しい学校では、ほぼ、オープンスペースを取り入れている。

（事務局）

お勤めの学校では、統合の話などがあるか。

（意見）

対象にはなっていない。去年は3学級だった学年が2学級になったので、詰め込んでいる感じがあり、子どもが減っていると感じる。

（事務局）

部活動などはいかがか。

（意見）

今年は、入部希望がなければバレー部が無くなる予定だった。そもそもの数が少ないので、数人ずつ入ってきてもチームが組めなかったりする。部活動ができにくくなっていて、野球部は他校と合同で行っている。ブラスバンドも1、2年生16人。各パートに各学年がいればいいが、そうもいかない。

(事務局)

再編ということで参加していただいたが、どのようなイメージを持たれているか。

(質問)

坂本小は近いが、もし久慈小になったら遠い。小さいうちは大変だと思う。
再編のイメージは決まっているのか。

(事務局)

具体的なことは全く決まっていない。現在検討しているところ。

(質問)

いつ再編されるのかは、いつ決まるのか。

(事務局)

具体的にはお示しできない。できるだけ早くお示しできるようにしていきたい。全体像が見えてこない質問もしくいし、見通しも立たないと思う。

検討中の再編計画の中で、将来を見据えた全体像と今後10年間の取組をお示ししたいと考えている。来年度中には、素案をお示しして、ご意見を伺う機会を作りたい。

(教育長)

できるだけ早く目安を示したい。

今回の懇談会は、保護者の皆さんとやり取りをしながら地域ごとのいろいろな事情を伺いたいと思っている。そのようなことを踏まえて、検討委員会で具体的な検討をしていく。

(事務局)

保護者、学校、地域活動などの代表者など25人で組織する検討委員会で検討していく。アンケートや懇談会での意見などの情報を提供して、日立の子どもたちにとって、地域にとって、どのような形がいいのかと検討していただいている。昨年度、基本方針の素案を作っていただき、地域懇談会で意見をいただき、検討委員会に戻して、基本方針の最終案を作った。再編計画も同様に作っていきたい。この懇談会での意見を検討委員会に伝え、素案を作成し、再度、皆さんにご意見をいただきたい。併せて、学校はいろいろな機能を持つ大切な公共施設で、街づくりにもかかわるので、市全体で、学校がどうあるべきかを幅広い視野で検討するための行政内の検討組織もある。両輪で進めている。

こちらからお伺いしたい。

再編することによって通学距離が延びてしまい、登下校の安全が心配だというご意見が多い。

国では基準があって、小学校で4km、中学校で6km、時間で1時間以内が目安となっている。参考までに、日立市の小学生では約3kmが最長。中学生では、自転車通学で4.5kmくらいが最長。ご自身の体験も踏まえて、登下校についてご意見を聞かせてほしい。

(意見)

自身は水木小、泉丘中の出身。実家が森山町だったので学校が遠かった。団地の中を歩いていたので、交通量は多くはなかった。

自転車通学は危ないイメージがある。遠くなったらバスが確実だと思う。ここまでは乗っていたことが分かるから。

(意見)

自宅から小学校まで徒歩で20分、2kmくらい。中学校は1kmくらい。坂本小学区だが、少し遠い感じがする。久慈中は近い。子どもにはなるべく歩かせたいと思っている。子どもの頃のイメージでは、遠くから来る子は足が速いという印象がある。

小学生の3～4kmは長い。自分が3kmを徒歩で通勤しているが、今年など暑くて辛い。

(事務局)

他の自治体でも再編によりスクールバスを出しているが、体力面で課題がある。歩く機会が無くなるので体力が落ちる実態があるようだ。学校の手前で降ろす、登校したら、まず走るというような対応をしていると聞いている。単純にバスを利用すればいいということでもないようだ。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。